

令和四年度 学 力 検 査 問 題

国 語

(九時二十五分～十時十五分)  
(五十分間)

番

第

受検番号

注 意

1 解答用紙について

- (1) 解答用紙は一枚で、問題用紙にはさんであります。
- (2) 係の先生の指示に従って、所定の欄に受検番号を書きなさい。
- (3) 答えはすべて解答用紙のきめられたところに、はつきりと書きなさい。
- (4) 解答用紙は切りはなしてはいけません。
- (5) 解答用紙の※印は集計のためのもので、解答には関係ありません。

2 問題用紙について

- (1) 表紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。
  - (2) 問題は全部で五問あり、表紙を除いて十三ページです。
- 印刷のはつきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(26点)

高校卒業後、就職もアルバイトもなかなかうまくいかない「俺」(浩弥)は、近所のコミュニケーションハウスにある図書室で、司書の小町さんや司書見習いののぞみちゃんと知り合う。そして、小町さんから飛行機をかたどった自作のぬいぐるみをもらい、『進化の記録』という本を読むようすすめられる。

図書室に入ると、小町さんがどんと貸出カウンターにいてびっくりした。やっぱりざくざくとぬいぐるみを作っている。

俺は閲覧テーブルに座って、『進化の記録』を開いた。

こうしていると、昨晚乱れた心が少し落ち着いてきた。俺にはさして関心のない様子で、だけど拒絶もせず、すぐそばで手を動かし続けている小町さんの存在がありがたかった。いつでも本を読みにくれはいいと言ってくれたことが。

でも、それもいつかのことだ。一生ここで本を読んでいることはやっぱりできないだろう。小学生は時期がくれば卒業するけど、俺の節目は自動的にはやってこない。終わりの始まりも、誰も決めてくれない。

自然淘汰。環境に適応できない者は滅びる。

それなら、適応できないってわかっていながら、好ましくない変異なんて思われながら、苦しい思いをしなげらなで生きていかなくちやいけないんだ。

俺自身にたいした力がなくなつて、世渡りできる器用さがちよつとでもあればうまくやっつけていけるのに。たとえ多少卑怯なことをしてでも。

そんなふうに思いながらも、そうやって墜落とされた側の痛みばかりがリアルに迫ってくる。光を当てられなかったウオレスは、本当にダーウインを「よき友人」なんて思っていたんだらうか。

① 俺は開いたままの本の上につつぶした。

小町さんが抑揚のない声で「どうした。」とつぶやく。

「……………ダーウインって、ひどい奴じゃないですか。ウオレスが不憫だ。先に発表しようとしたのはウオレスなのに、ダーウインばかりもてはやされて。俺、この本を読むまでウオレスなんて名前も知らなかった。」

しばらく沈黙が続いた。俺はつつぶしたまま、小町さんは何も言わずにおそらく針を刺していた。

少しして、小町さんが口を開いた。

「伝記や歴史書なんかを読むときに、気をつけなくちやいけないのは。」

俺は顔を上げる。小町さんは俺と目を合わせ、ゆつくりと続けた。

「それもひとつの説である、ということ念頭に置くのを忘れちゃだめだ。実際のところは本人にしかわからないよ。誰がああ言ったとかこうしたとか、人伝えでいろんな解釈がある。リアルタイムのインターネットでさえ誤解は生じるのに、こんな昔のこと、どこまで正確かなんてわからない。」

こきん、と小町さんは首を横に倒す。

「でも、少なくとも浩弥くんはその本を読んでウオレスを知ったよね。そしてウオレスについて、いろんなことを考えている。それつじゅうぶんに、この世界にウオレスの生きる場所を作ったということじゃない?」

俺がウオレスの生きる場所を?

誰かが誰かを想<sup>おも</sup>う。それが居場所を作るということ……？

「それに、ウォレスだって立派に有名人だよ。世界地図には、生物分布を表すウォレス線なんでものも記されてる。彼の功績はちゃんと認められてると思うよ。その背後には、どれだけたくさんの名も残さぬ偉大な人々がいたんだろうね。」

ざくざく、ざくざく。小町さんが無言になって、毛玉に針を刺しはじめた。

俺は本に目を落とし、ウォレスのそばにいたであろう名も残さぬ人々のことを想った。

コミュニティーハウスを出たところで、スマホが鳴った。

征太郎からの電話だった。友達からの電話なんてはばかかってきたことがなくて、俺は立ち止まり、緊張気味に出た。

「浩弥、僕……僕……」

スマホの向こうで征太郎が泣きじやくっている。俺はうるたえた。

「どうしたんだよ、おい、征太郎。」

「……作家デビュー、決まった。」

「は？」

「実は、年末にメイプル書房の編集さんからメールがあつたんだ。僕、秋の文学フリマで小説の冊子を出していて、それを読んでくれた崎谷さんって人から。何度か会って打ち合わせして、少し手を入れる方向で、今日、企画が通つたって。」

「す、すげえ！ よかつたじゃん！」

震えた。

すげえ、ほんとにすげえ。夢かなえちゃつたよ、征太郎。

「浩弥に、一番に言いたかつたんだ。」

「え。」

「僕が作家になれるわけないって、きつとみんな思つてた。でも高校のとき、浩弥だけは言つてくれたんだ。征太郎の小説は面白いから書き続けろって。浩弥は忘れちゃつたかもしれないけど、僕にとってはそのひとことが原動力で、最強に信じられるお守りだつたんだ。」

征太郎は大泣きしていたけど、俺も涙があふれて止まらなかつた。俺の……俺の小さなひとことを、そこまで大事にしてくれてたなんて。

でも、征太郎が書き続けて発表し続けてこられたのは、そのせいだけじゃない。きつと、征太郎の中に自分を信じる気持ちがあつたからだ。

「じゃあ、もう水道局員じゃなくて作家だな。」

鼻水をすすりながら俺が言うと、征太郎は「ううん。」と笑つた。

「水道局の仕事があつたから、小説を書き続けることができたんだ。これからも辞めないよ。」

俺はその言葉を、頭の中で繰り返した。どういう意味だろうと考えてしまうような、でも理屈じゃなくすごくわかるような。

「今度、お祝いしような。」と言って、俺は電話を切つた。

俺は気持ちを落ち着かせながら、ジャンパーの両ポケットに手を突っ込んだ。

左に<sup>※</sup>タイムカプセルの紙、右に小町さんがくれたぬいぐるみ。

どちらも入れたままになっていた。俺はふたつとも取り出し、それぞれの手に載せた。

飛行機。誰もが知つてる文明の利器。大勢の客や荷物を乗せて空を飛んでいても、今、驚く人は

いない。

たった百六十年前――。

それまでヨーロッパでは、生物はすべて神が最初からその形に創ったもので、これまでもこれからも姿を変えることなんかないって固く信じられていた。

サンショウウオは火から生まれたと、極楽島は本当に極楽から来た使いだ。みんな真剣にそう思っていた。

だからダーウインは発芽することを躊躇したのだ。まさに、環境に適応しない考えを持つ自分自身が淘汰されることを恐れて。

でも、今や進化論はあたりまえになっている。ありえないって思われてたことが、常識になっている。ダーウインもウォレスも、当時の研究者たちはみんな、自分を信じて、学び続けて発表し続けて……。

自分を取り巻く環境のほうを変えたんだ。

右手に載った飛行機を眺める。

百六十年前の人たちに、こんな乗り物があるって話しても誰も信じないだろう。

鉄が飛ぶはずないって。そんなものは空想の世界の話だつて。

俺も思っていた。

俺に絵の才能なんてあるわけない、普通に就職なんてできるはずない。

でもそのことが、どれだけの可能性を狭めてきたんだらう？

そして左手には、土の中に保管されていた高校生の俺。四つ折りにされた紙の端をつまみ、俺はようやく、タイムカプセルを開く。

そこに書かれた文字を見て、俺はハッとした。

「人の心に残るイラストを描く」

たしかに俺の字で、そう書いてあった。

そうだったわけ……ああ、そうだったかもしれない。

どこかでねじまがって、勘違いが刷り込まれていた。「歴史に名を残す」って書いてたと思い込んでいた。壮大な夢を抱いていたのに打ち砕かれたつて。俺を認めてくれない世間や、ブラックな企業のはびこる社会が悪いって、被害者ぶつて。でも俺の根っこ、最初の願いは、こういうことだったじゃないか。

丸めようとしていた俺の絵を、救ってくれたのぞみちゃんの手を思い出す。俺の絵を、好きだつて言ってくれた声も。俺はそれを、素直に受け取っていなかった。お世辞だと思っていた。自分のことも人のことも信じてなかったからだ。

④ 十八歳の俺。ごめん。

今からでも、遅くないよな。歴史に名が刻まれるなんて、うんと後のことよりも……それよりも何よりも、誰かの人生の中で心に残るような絵が一枚でも描けたら。

それは俺の、れっきとした居場所になるんじゃないか。

(青山美智子著『お探し物は図書室まで』による。一部省略がある。)

(注) ※ウオレス……アルフレッド・ラッセル・ウオレス。イギリスの博物学者。

(一八三〜一九三)

※タイムカプセル……ここでは、浩弥が高校卒業時に埋め、最近の同窓会で掘り出されたもの。

問1 ① 俺は開いたままの本の上につぶした。 とありますが、このときの浩弥の心情として最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 『進化の記録』を読んで自然淘汰を恐ろしく思いながら、自分がダーウインのように相手を蹴落とす側になるためにはどうしたらいいか、策を巡らせている。

イ 『進化の記録』を読んで自然淘汰を恐ろしく思いながら、ダーウインのことを自分自身に重ね合わせて多少卑怯なことをしてでも生き残ろうと決意している。

ウ 『進化の記録』を読みながら環境に適應できず滅びた者のことを思い、ウオレスのことを自分自身に重ね合わせて自分の将来や社会に希望がもてなくなっている。

エ 『進化の記録』を読みながら環境に適應できず滅びた者のことを思い、どうしたらウオレスのように人から受けた裏切りを許すことができるのかを考えている。

問2 ② 名も残さぬ人々のことを想った。 とありますが、このときの浩弥の心情はどのようなものですか。次の枠欄にあてはまる内容を十五字以上、二十五字以内で書きなさい。(6点)

名も残さぬ人々に対しても、	
15	25
ことができるのかもしれない、という心情。	

問3 ③ 俺も涙があふれて止まらなかった。 とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 征太郎が作品を出版してくれる出版社と巡りあった喜びにくわえ、浩弥以外にも征太郎の才能を認めてくれる人がいたことに驚きを感じたから。

イ 征太郎の作家デビューが決まったことに感動するとともに、征太郎が浩弥の言葉を心の支えにして小説を書き続けてきたことをうれしく思ったから。

ウ 征太郎が作家になる夢をかなえだうれしにくわえ、水道局の仕事を受けながら今後も小説を書き続けると約束してくれたことを心強く思ったから。

エ 浩弥の言葉が征太郎を支えてきたことを知った驚きとあわせ、作家になれるわけがないと言っていた人々を見返してくれたことをうれしく思ったから。

問4 ④ 今からでも、遅くないよな。とありますが、このときの浩弥の心情の変化を次のようにまとめました。次の空欄にあてはまる内容を、可能性、人生の二つの言葉を使って、四十五字以上、五十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(7点)

今までは、世間や社会が悪いと思うと同時に、	
	45
	55 という心情に変化した。

問5 本文の表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 浩弥が語り手となって展開する場面と小町さんが語り手となって展開する場面の双方があり、同じ出来事でも複数の見方ができることが示されている。
- イ 浩弥の話を中心しつつ、そこに征太郎の小説家デビューに関する話、ダーウィンとウォレスの進化論をめぐる話を重ね合わせて展開されている。
- ウ 「す、すげえ！ よかったじゃん！」や「ほんとにすげえ」とくだけた表現を用いることで、浩弥の感情がわかりやすく率直に表現されている。
- エ 「でも高校のとき、浩弥だけは言ってくれたんだ。征太郎の小説は面白いから書き続けるって。」のように倒置を用いることで、文章を印象づけている。
- オ 「どういう意味だろうと考えてしまうような、でも理屈じゃなくすごくわかるような。」と連用形で文を切ることで、物語がテンポ良く展開している。

## 2 次の各問いに答えなさい。(24点)

問1 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)

- (1) 資源が潤沢にある。
- (2) 新しい作品を披露する。
- (3) 遠い故郷に焦がれる。
- (4) 家と学校を歩いてオウフクする。
- (5) 重要な記事に大きく紙面をサク。

問 2 次の文を単語に分けたとき、最も多く使われている品詞の名称を書きなさい。(3点)

あきらめずに練習を続けようと思いました。

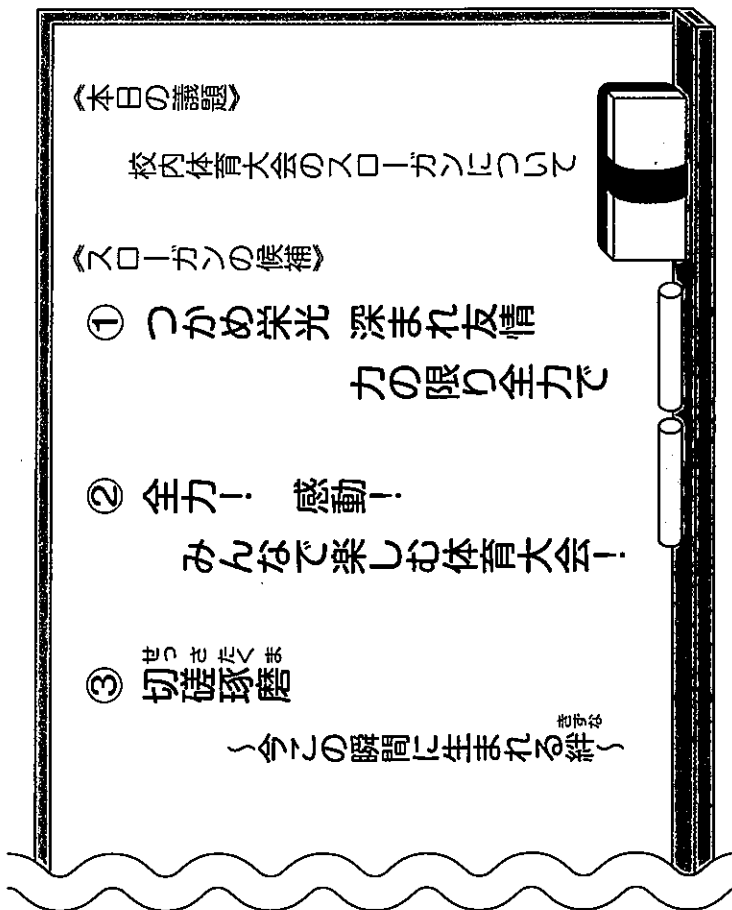
問 3 次の文中の――部と――部とが反対の意味になるように、あとのア～オの漢字を組み合わせてそれぞれ二字の熟語を作ります。このとき、□に用いない漢字を一つ選び、その記号を書きなさい。ただし、同じ漢字は一度しか用いないものとします。(3点)

あまり深く考えずに判断してしまうといった□□な行動をやめ、□□に構えて物事にじっくりと取り組むことが、今後の課題です。

ア 重            イ 審            ウ 率            エ 慎            オ 軽

問 4 次は、中学生のAさんたちが行っている、校内体育大会のスローガンについての話し合いの一部です。【黒板】の内容と話し合いの様子を読んで、あとの問いに答えなさい。

【黒板】



話し合いの様子

Aさん「では、提案された三つの候補について、必要があれば修正しつつ、最終的に一つを選びたいと思います。まずはそれぞれの候補について、よい点や改善点などを自由に発言してください。」

Bさん「①の『つかめ栄光 深まれ友情 力の限り全力で』がよいと思います。理由は、他のクラスと勝ち負けを争って優勝を目指すとということ、練習や本番を通して友情を深め団結を強めるという、二種類の目標が入っているからです。それぞれの視点から取り組むことで、より充実した体育大会にできると思います。」

Cさん「私は③の『切磋琢磨（今この瞬間に生まれる絆）』を推薦します。互いに励まし合い競争し合うことで共に向上する、という『切磋琢磨』の意味と、副題を合わせて考えると、各クラス内だけでなく、競い合う他のクラスや他学年とも励まし合い、絆を生み出すという目標になるため、学校行事のスローガンとしてふさわしいと思うからです。」

Dさん「私は②の『全力！ 感動！ みんなで楽しむ体育大会！』がよいと思いました。『楽しむ』という言葉から、最終的な  I  のみにとらわれることなく全力を尽くし、最高の思い出を作る、という意志が感じられるからです。」

Eさん「Dさんの意見に賛成です。ただ、『楽しむ』という言葉を使用した意図を示さないと、スローガンを見た人たちに意味を誤解されてしまうかもしれないので、気をつけた方がよいと思います。」

Fさん「そうですね。『楽しむ』という言葉が、『楽をしたい』や『好きなことだけががんばる』といった意味にとらえられてしまわないように、意図を補足する副題をつけ加えてはどうでしょうか。」

Aさん「なるほど。それでは②については、副題の追加も含めて、引き続き検討していきたいと思えます。他に何か意見はありますか。」

(1) 空欄  I  にあてはまる言葉を、  話し合いの様子  の中から探し、四字で書き抜きなさい。(3点)

(2) 『楽しむ』という言葉が、『楽をしたい』や『好きなことだけががんばる』といった意味にとらえられてしまわないように、意図を補足する副題をつけ加えてはどうでしょうか。とありますが、このFさんの発言についての説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(2点)

- ア 他の人の発言と自分の発言の問題点を示して、賛成するか反対するかの確認をしている。
- イ 他の人の発言を引用して、話し合い全体の振り返りと今後検討すべきことを述べている。
- ウ 直前の発言内容の一部を具体的に言い換えた上で、自分の考えを提案として示している。
- エ 直前の発言内容の一部否定しながら、新たな意見を出し合うよう全体に呼びかけている。

(3) Aさんはこの話し合いのあと、『<sup>せつ</sup>切磋<sup>たく</sup>琢磨』という言葉に興味をもち調べたところ、『切磋』と『琢磨』という似た意味の二字熟語を組み合わせてできた四字熟語であることがわかりました。『切磋琢磨』と同じ構成である四字熟語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 異口同音
- イ 和洋折衷
- ウ 春夏秋冬
- エ 威風堂々



3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(26点)

さて、まずは倫理の問題に答えはあるか、という問いにはどのような答えがありそうでしょうか。もともと素朴に考えられるのは次の二つの可能性です。

- (一) 倫理の問題に、正解はない
- (二) 倫理の問題に、正解はある

皆さんは、どちらに賛成でしょうか。しばしば聞かれるのが、(一)の倫理の問題に正解などないという意見です。確かに、倫理の問題は簡単には答えられないものが多いようです。より多くの人を助けるために、少数の人を犠牲にしてもいいかという問題一つをとってみても、答えは人によって分かれるでしょう。しかし、倫理学の世界では、実は(二)はあまり人気がありません。というのも、倫理の問題には、明らかに、答えられるものもあるからです。

たとえば、何の特別な事情もないときに、他人に暴力をふるってもよいか、他人のものを取り上げてよいか、他人を監禁して自由を奪ってもよいか、他人の命を奪ってもよいか、などの問題は、すべて「ノー」が正解だと言えるのではないのでしょうか。

もちろん特別な事情というのが絡んでくると、<sup>①</sup>途端に事態は複雑になります。たとえば、刑罰という観点から見ると、先ほど挙げたものはいずれも許容される余地があります。日本では身体刑こそ廃止されていますが、財産刑(罰金などで財産を奪う)、自由刑(懲役などで自由を奪う)、生命刑(死刑によって生命を奪う)が採用されています。どんな事情があればどの程度の刑に相当するのか、ということを決めるのは、非常に難しいことです。

しかし、<sup>②</sup>答えるのが難しいことと、正解がないことは違います。数式が長く複雑になれば計算は難しくなるのと同じで、事情が複雑になればなるほど正解を出すことは難しくなります。計算に入れねばならない事象が増えれば増えるほど、証明の完成は遠のきます。しかし、だからといって、そのために答えがなくなるわけではありません。

多くの倫理学者たちも、同じように考えています。確かに、人々がどれだけ知恵を絞っても、なお答えが分からない問題もたくさんあります。それでも複雑に絡まりあつた事情を一本一本、丁寧に選り分けていくことで、少しでも正解に近づくために、倫理の研究は行われています。

もちろん、それでも納得がいかないという人がいるかもしれません。実際、先ほど言ったことはまったく逆のことを言うように見えるかもしれませんが、正解など存在してない、と考える倫理学者たちも多いのです。

ポイントは「存在している」というところにあります。たとえば、算数や物理の問題については、正解は最初から決まっています。誰一人、人間がいなくても、リンゴは重力にひかれて落下するでしょうし、 $2+3$ は5だろうと考えることは自然です。その意味で、算数や物理といった形式科学にかかわる問題の正解は最初から存在している、と考えることができます。

他方で、倫理の問題の正答はそうではない、とは考えられないでしょうか。

たとえば、万学の祖と称されるアリストテレスも次のように述べています。「『美しいこと』や『正しいこと』には多くの相違やゆらぎがあると思われており、そのためそうした美しいことや正しいことは、ただ単に人々の定めた決まりごとでしかなく、本来は存在しないものだと思われる。『善いこと』にもこうした種類のゆらぎがある。」

つまり、数学や物理の法則は、誰かが作ったものではなく、最初からあるもので、世界がどれだ

け変わっても、これからもあり続けるものです。その意味で、それらの法則は世界に「存在」しています。他方、倫理のルールは違う、と言われることがあります。それによれば、倫理のルールは誰かが作った決まりごとであり、社会や文化が変われば、いつかは変わってしまうかもしれないものに過ぎません。それは確かに、今の私たちの行動を左右するという意味で「ある」と認められるものかもしれませんが、だからといって物理法則のように「存在する」ものとは違う。倫理の問題には正解が存在するわけではないと考える人々は、そのように主張するのです。<sup>③</sup>

とはいえ、倫理の問題でも正解が「存在しない」からといって、何をしてもいい、とはならない、と倫理に正解は「存在しない」と考える人たちも主張します。むしろ、彼らの多くは、正解が存在すると考える人々と同等以上に、倫理の問題について真剣に考えています。というのも、正解が存在するならば、個人は悩むことなく単純にその正解に従えばいいからです。

他方、最初から定まった正解がないとしたら、私たちは自分たち自身で、自分たちの生き方を決めなければいけません。他に頼りにできるものはないのです。<sup>もろもろ</sup>予めの正解がどこにもない世界で、どうやって隣人と接し、何を指針とし、何に生きる意味を見出すかについて考え、自分たちなりの答えを作り出すことこそ、倫理学の課題であると、彼らは考えてきました。

こういった問題は倫理の存在論と呼ばれていて、そこでは以下のように両者は言い換えられています。ここまで正解が「存在する」と言ってきたものは「実在する」、正解が「ある」と言ってきたものは、誰かが作ったもので「構成されたものとして『ある』」。このような区別をした上で、実在論者と反実在論者は激しい論争を繰り広げています。

もちろん、「実在する」と「ある」の区別なんてしゃらくさい、天然ものであれ、人工物であれ、あるものはあるのだから、存在論なんてどうでもいい、と考える人々もいます。確かに、それは一理あります。法学においても、法律とは不変の法を具現化したものだと思える立場と、人々が一から作り上げたものだと思える立場の間の対立がありますが、裁判の場面では何はともあれ国会で定められた法律に即<sup>？</sup>って裁定は下されます。

しかし、倫理の存在論というものが、論じるに足る重要な問題であるとまじめに考える人たちは<sup>⑤</sup>そうは思っていない。それは法律のように立法の手続きや執行者の権威、違反したときの処分が明確なものと違って、仮に倫理の正解が誰かが作った人工物だとすれば、いったい誰が作ったのか、そしてその誰かが作ったものになぜこの私が従わねばならないのか、従わない人をどう扱えばいいのか、という問題が生じるからです。

物理法則のような、世界の側に時間を通じて不変に存在するものについては、逆らうことはできません。気に入らないから、私は万有引力の法則には従わないよ、というわけにはいきませんし、2+3を勝手に4にすることもできません。

他方で、誰かが作ったものについては、気に入らない場合、それに従わずに、変更を加えたり、新しいものを作ったりしたって構わないはず。時代遅れになった洋服は処分して新しい洋服を買うように、昔の人が作った倫理も現代という時代にあっていないなら、作り直した方がいいかもしれません。

(佐藤岳詩著『倫理の問題』とは何か メタ倫理学から考える』による。一部省略がある。)

問 1 ① 途端に事態は複雑になります。 とありますが、この説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 何の特別な事情もないときには正しくないことでも、特別な事情が絡んでくると必ずしも正しくないとは言いきれない場合があるということ。

イ 何の特別な事情もないときには正しくないことでも、様々な事情を絡めていくなかで人々に正しいことだと誤解させることは可能であるということ。

ウ 何の特別な事情もないときには正しいことであっても、特別な事情を理由としてそれらに反対したり抵抗したりする人が存在するということ。

エ 何の特別な事情もないときには正しいことであっても、現代社会は人それぞれに異なる事情を抱えているため全員が納得することはないということ。

問 2 ② 答えるのが難しいことと、正解がないことは違います。 とありますが、その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア 事情が複雑になればなるほど正解を出すことが難しくなるのは感じ方の問題であり、正解がないというのは倫理学における揺るぎない事実であるということ。

イ 事情が複雑になればなるほど正解を出すことが難しくなるのは明らかな事実であり、正解がないというのはそれを考える倫理学者の能力の問題だということ。

ウ 事情が複雑になればなるほど正解を出すことが難しくなるが、それはあくまで倫理の問題には正解がないという前提によって生じるものだという事だということ。

エ 事情が複雑になればなるほど正解を出すことが難しくなるが、考えねばならない事情が増えることと正解があることは別の問題であり関連しないということ。

問 3 ③ そのように主張するのは。 とありますが、この主張の内容を説明した次の文の空欄  I 、  
 II  にあてはまる内容を、それぞれ十五字以上、二十字以内で書きなさい。(6点)

物理法則が  I  ものであるのに対し、倫理のルールは  II  ものという違いがある。

問 4 ④ 存在論なんてどうでもいい、と考える人々もいます。 とありますが、ここで「人々」が存在論をどうでもいいと考える理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

ア 倫理の正解が国会で定められた法律に則<sup>したが</sup>って裁定されたものであり、必ず従わなければならないものである以上、倫理の正解が適切かどうかを考えることに意味はないから。

イ 倫理の正解が「実在する」ものか「構成されたもの」として「ある」ものかに関わらず、従わねばならないものとしてある以上、倫理の存在論を考えることに意味はないから。

ウ 倫理の正解が「実在する」ものか「実在しない」ものかに関わらず、この世界には予め正解がどこにも存在しない以上、倫理の正解を存在論に求めることに意味はないから。

エ 倫理の正解が人それぞれの生き方や生きる意味から導き出されるものであり、人々が必ず従うべきものとはなりえない以上、何が正解なのかを考えることに意味はないから。

問5 ⑤ 倫理の存在論というものが、論じるに足る重要な問題であるとまじめに考える人たちはそう  
は思っていません。とありますが、倫理の存在論はなぜ重要な問題だといえるのですか。次  
の空欄にあてはまる内容を、人工物、時代の二つの言葉を使って、四十字以上、五十字以内で  
書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(7点)

倫理の存在論において、倫理の正解が、	
	40
	50
と考えられるから。	

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(……の左側は口語訳です。)(12点)

むかし、天智天皇と申すみかどの、野にいでて鷹狩せさせ給ひけるに、御鷹、風にながれて鷹をつかつた狩りをなされたうせにけり。むかしは、野をまもる者ありけるに、召して、「御鷹うせにたり、たしかにもとめよ。」と仰せられければ、かしこまりて、「御鷹は、かの岡の松のほつえに、南にむきて、しか待る。」とおっしゃられたので、上の枝に止まっております申しければ、おどろかせ給ひにけり。「そもそもなんぢ、地にむかひて、かうべを地につけて、  
 ② ほかを見る事なし。いかにして、  
 ③ 野守のおきな「民は、公主におもてをまじふる事なし。しばのうへにたまれる水を、かがみとして、  
 かしらの雪をもさとり、おもてのしわをまかぞふるものなれば、そのかがみをまはりて、御鷹の  
 木居を知れり。」と申しければ、そのち、野の中にたまりける水を、野守のかがみとは  
 いふなり、とぞいひつたぐたる。

(「俊順筆」による。)

問1 ① たしかにもとめよ。とありますが、天智天皇は誰にどのようなことを命じたのですか。空欄 I にあてはまる内容を書きなさい。(3点)

I	ことを命じた。
---	---------

問2 ② ほかを見る事なし。の主語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 作者                      イ 天智天皇                      ウ 御鷹                      エ 野をまもる者

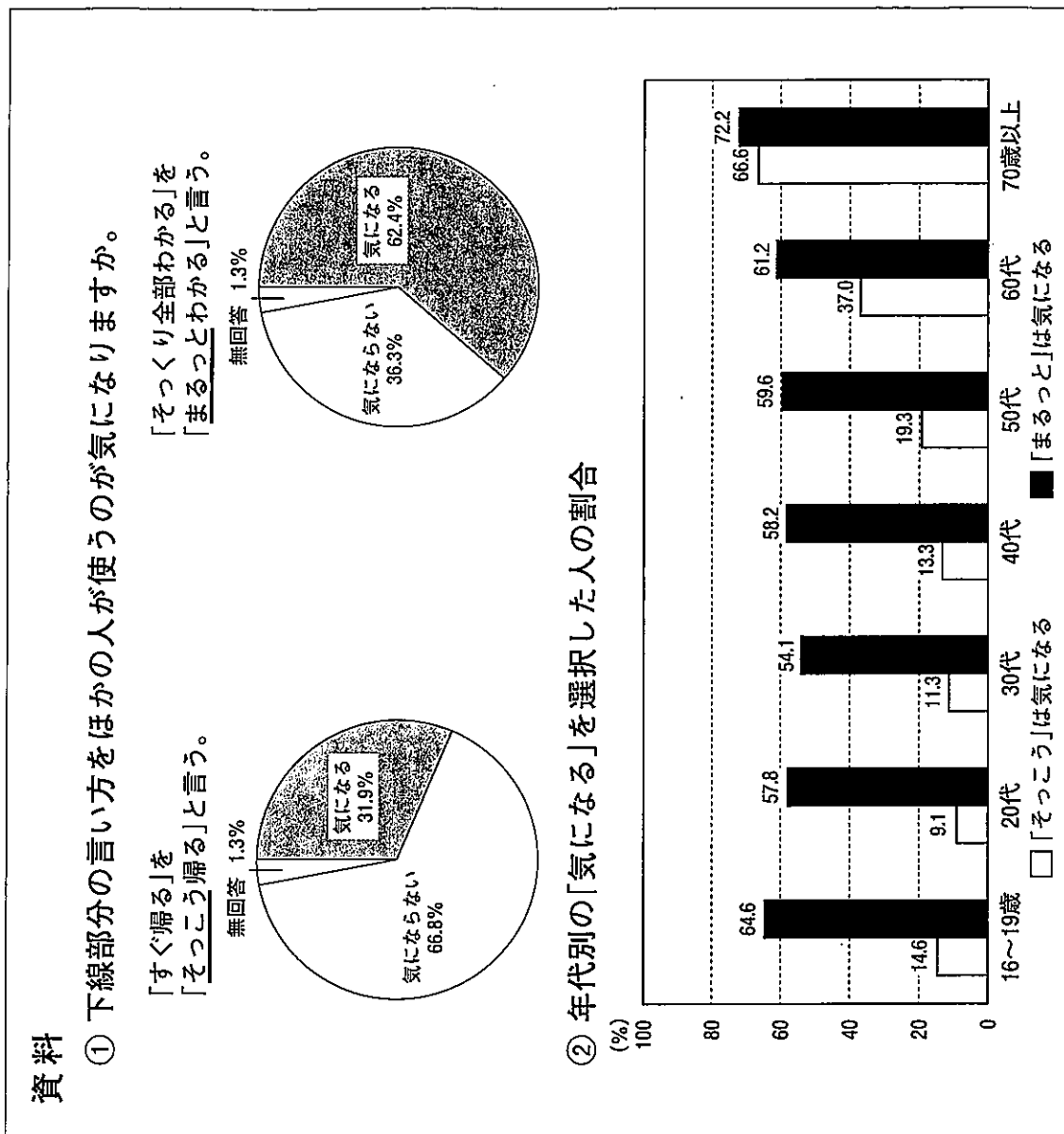
問3 ③ こずゑにゐたる とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、ひらがなで書きなさい。(3点)

問4 本文の内容について述べた文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 天智天皇は、御鷹が風に流されたのは、野守のおきなが管理を怠っているせいだと考えた。  
 イ 天智天皇は、野守のおきなが自らの顔を見ないで話し続けたことに、強い怒りを感じた。  
 ウ 野守のおきなは、水たまりに映しだされた様子から、御鷹が止まっている場所を知った。  
 エ 野守のおきなは、職務を忠実に果たしたため、「野守のかがみ」と呼ばれるようになった。

5 次の資料は、文化庁が行った「国語に関する世論調査」の結果をまとめたものです。

国語の授業で、この資料から読み取ったことをもとに「コミュニケーションを図るときに気を付けること」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。あとの(注意)に従って、あなたの考えを書きなさい。(12点)



文化庁 令和2年度「国語に関する世論調査」より作成

(注意)

- (1) 二段落構成とし、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験(見たこと聞いたことなども含む)をふまえてあなたの考えを書くこと。
- (2) 文章は、十一行以上、十三行以内で書くこと。
- (3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。
- (4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

(以上で問題は終わりです。)

5 4 3 2 1

(作文は解答用紙(2)に書くこと)

問3 Ⅲ	問2 Ⅲ	問1 Ⅲ	問5 Ⅲ	問4 Ⅲ	問3 Ⅲ	問1 Ⅲ	問4 Ⅲ	問2 Ⅲ	問1 Ⅲ	問5 Ⅲ	問4 Ⅲ	問3 Ⅲ	問2 Ⅲ	問1 Ⅲ
					Ⅱ I		(1)		(4) (1)	( )				
						問2 Ⅲ	(2)		(5) (2)	45			25	
問4 Ⅲ			50				問3 Ⅲ			( )				
							(3)		<	55				
					15 15				(3)					
			40		20 20				が れ る				15	

国語 解答用紙 (1)

得点
※
受検番号
第 番

(ここには何も書いてはいけません。)

(切りはなしてはいけません。)

5

13	11																		

国語 解答用紙 (2)

受検番号
第 番